

## ASEAN グローバルプログラムで 得たもの

植村 太一  
Taichi UEMURA  
物質化学科 2年

### 1. はじめに

2017年8月29日から9月7日にかけてベトナムのハノイ、シンガポールにて企業研修、大学訪問等を含む ASEAN グローバルプログラムに参加しました。具体的なプログラムの日程を表1に示します。本稿ではプログラムに参加した目的、研修内容、そこで学んだこと、ベトナムと日本の比較、プログラム全体を通して得たものとそれをふまえた今後の目標について記します。

表1 プログラムの日程

8月29日(火)	出国, オリエンテーション
8月30日(水)	Takagi Vietnam Rikkei Soft/NTQ
8月31日(木)	ハノイ工業大学 PBL
9月1日(金)	PBL 最終プレゼン
9月2日(土)	戦勝記念博物館 文廟訪問
9月3日(日)   9月7日(木)	シンガポール着 国立博物館 南洋理工大學訪問 植物園 帰国

### 2. 参加目的

私がこのプログラムに参加した目的は、今まで培ってきた英語力が海外にあってみて現地でどれくらい通用するのか、また海外での生活がどのようなものかを知りたかったからです。また、コミュニケーション能力の向上、初の海外であったのもあり居心地の良い日本から出て日本ではなかなか味わえない体験をし自分の幅を広げ少しでも成長したいという思いからこのプログラムに参加することを決めまし

た。

### 3. 研修内容

#### 3.1 Takagi Vietnam

ここは日本のタカギグループが初の海外拠点にした場所で、プラスチックの成型を行ったり、散水製品の組み立て、また金属部品の加工も行っていました。そして驚くべきことに、従業員の9割が女性でした。その理由はベトナム人の女性は男性よりも仕事に関して熱心に働くからだそうです。またここでは日本人の関係者の方のベトナムの社会発展に貢献したいという気持ちがひしひしと伝わってきました。そんなベトナムへの思いの強さがうかがえた素敵な場所でした。

#### 3.2 戦勝記念博物館

ここはベトナム戦争を経て多くの犠牲者が出て、もう二度とこのような悲惨で残酷なことを繰り返してほしくないという願いを込めて設立されました。ベトナム戦争に関する写真や保管物などが展示されており僕の中で印象に残っているのは戦車や戦闘機です。これらは本物さながらのクオリティで終始圧倒されっぱなしでした。ここにきてベトナム戦争がいかに悲惨であったのかを再確認し、本当にこのようなことが二度と起こって欲しくないと感じました。

### 4. ハノイ工業大学での PBL

私の中でこれからも記憶として残っていくだろうと感じた研修内容はやはり PBL です。出国前から事前課題として「ユニクロの商品をベトナム市場に売り込む」といったテーマのもとグループで話し合いベトナム人に好まれそうな素材、デザインの商品を選びました。そして現地ではハノイ工業大学のメンバー二人がグループに加わり最初はベトナムのメンバーとうまくやっていたか正直不安でした。しかし二人ともとても気さくな方で打ち解けるまでに時間はかかりませんでした。また僕にはもう一つ気

がかりなことがありました。コミュニケーション手段です。ベトナムの方は私の思っていた以上に英語を流暢に話すことができ、何の不自由なく英語を話していました。一方私は、会話は疎か英語を聞くことさえも困難に感じました。自分はまだ少しまともに話せると思っていただけに悲しかったです。この時、さらに英語力を鍛えようと心から思いました。そしてベトナム人が好むと思われる材質、袖丈の長さ、デザインなどをグループで仮説を立て二日にかけてそれに沿ったアンケートを一日目は大学内で、二日目はホアンキエム周辺で行いました。そのアンケートをもとにプレゼンを仕上げました。実際にアンケートを実施してみると、ベトナムの方は男女問わず快く答えて下さいました。日本ではあまり考えられないことだと思います。ベトナムの人の良さが感じられた体験でした。アンケートの結果を集計した後、限られた時間の中で私たちは全力でプレゼンの準備をしました。その時にはグループ全体が深い絆で結ばれていた気がしました。そしてプレゼン本番、僕たちのグループは時間内に仕上げることができずプレゼンもできる状態ではなく、私は正直諦めかけていましたが、ベトナムのメンバーは最後まで諦めていませんでした。そしてプレゼンも無事成功しました。それを見てベトナム人の何事にも引き下がらない底力を見た気がします。そんなメンバーからやり遂げる事の大切さを学びました。この経験を今後いろいろな場面で生かしていきたいと思いません。

## 5. まとめ

このプログラムに参加してみて学んだことがあります。

まず、英語の大切さです。現地ではコミュニケーション手段でもあった英語が思っていたよりもうまく話せず、伝いたいことがなかなか伝えられませんでした。やはり海外では世界共通語の英語は重要で、世界の人と繋がる可能性を最も広げてくれる言語であると感じました。またグローバル化が進行し続けている現在、英語がなければ周りの環境についていけなくなる可能性もあると思います。最近では日本でも突発的に外国人に道を聞かれることが増えていてそういった場面でも英語は必要となってきました。このプログラムを通して英語力をさらに身につけようと思うようになりました。またこれまで当たり前だと思っていたことが当たり前ではないと学びました。日本では水道水を飲めたり、空気が綺麗に保たれたりしていることが普通でしたが海外ではそれが普通ではありませんでした。またベトナムでは個人の交通マナーも高くなく、車線は無視している場面も見受けられたり、信号の数が日本に比べ少なく歩行者が道路を渡る際、車とバイクが行き交う中に突っ込んでいかなければならなくとても危なかったのを覚えています。これらの経験から日本がとても恵まれている国であると痛感しました。僕は、今回のプログラムに参加する前は正直不安もあり海外に行くのに若干の抵抗もありました。しかしこのプログラムが終わってみるとしばらく余韻が抜けずまた行きたいと自然と感じていました。このような経験ができたのも最後まで常に支えてくれた先生方や旅を楽しませてくれた仲間や親のおかげであり感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。